



発行

文化財愛護

平成20年3月23日

シンボルマーク

相模原市文化財調査・普及員
広報グループ

両手のひらと日本
建築伝統の組物を
イメージしたもの



～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

ようこそ 古民家園へ！

毎月第4日曜日の午前中に文化財調査・普及員の
実行委員会にて楽しい行事を行っています！

なつかしい？ 正月あそび

1月27日（日）古民家園において「正月あそび」が70余名の参加で行われました。

近頃ではあまり見られなくなった、かるた、羽根つき、独楽まわしなど。

まず最初に2組の輪になってかるた取り、その後独楽まわし、羽根つきにと、興味を持ったコーナーで、大きな独楽や小さな独楽を自在に操る男の子や初めて羽子板を手にしたという女の子たち、羽根つきが珍しく、また、年配の女性には懐かしいひと時だったようでした。



羽根つきもいり運動です！

体を動かした後、囲炉裏で作った甘酒で一息、ゆったりとした刻の流れでした。



みんな郷土カルタに夢中！

古民家園について

所 在 相模原市大島 3853-8 相模川自然の村公園内
開園時間 9:30～16:30 (7～8月は 17:30 閉園)
交通機関 橋本駅からバス上大島行きで終点「上大島」
下車徒歩 15分。または橋本駅からコミュニ
ティバスで「相模川自然の村」下車 5分

目 次

- ①・ようこそ古民家園へ！
- ②・縣下名勝史蹟四十五佳選記念碑紹介
・遺跡に学ぶ 津軽北秋田遺跡めぐり
- ③・民俗学の宝庫 津久井でお宝発見
・惣吉稲荷境内 墓碑・板碑の不思議
- ④・春の香り漂う 八瀬川沿いの散策
・文化財保護課からのお知らせ

大空高く～凧作り～

天まで上げ！



2月24日（日）強風の中、お父さんやお母さんと一緒に30数名の子どもたちが凧作りに参加しました。

短時間に簡単に作れるように工夫を重ねた凧作り、お父さんやお母さんと作った凧に、思い思いの絵を描いて公園内の芝生広場で凧あげをしました。

強風に負けず、大空に向かって見事に凧あげの競演が見られました。

平成20年度の古民家園行事の予定表

5月	古民家園周辺の史跡めぐり
6月	講演会（内容未定）
7月	落語・曲芸ほか
8月	コンサート
9月	仕事唄とこども囃子
10月	講演会（内容未定）
11月	木の実でリース作り
12月	正月飾り作り
1月	正月あそび
2月	ひなまつり関連行事
3月	囲炉裏を囲んで昔語り

(古民家園保存・普及事業実行委員会 西田)

70年前に建てられた『記念碑』を追って—けんかめいしやうしせき一縣下名勝史蹟四十五佳選かせんとうせんきねんひ當選記念碑—

石造物班は、調査・普及員以外の一般の方を含めた10人で活動しています。過去2年間は、旧市域の道標を調査しながら大山道、ほしのやみち、当麻山道を歩きました。

今年度は、『縣下名勝史蹟四十五佳選當選記念碑』とその周辺の調査を行いました。この記念碑は、横濱貿易新報社(神奈川県新聞社の前身)が昭和10年に神奈川県内の名勝史跡を新聞購読者の投票により、45箇所決めて建てたものです。相模原市内には9基(横浜市の12基に次いで多い)あり、近隣の市町村には愛川町に2基、清川村1基、厚木市2基、座間市3基、大和市に1基あります。

今年度は相模原市に隣接する座間市内にある以下の3箇所を調査しました。

①きたむきこうしんじんじや北向庚申神社(座間市栗原)は、四辺を道に囲まれた小さな社です。かつて近所の人が路傍の庚申塔に眼病平癒を祈願して、奇跡的に治ったことを契機に、庚申塔を祀る社殿が造営され、

参拝者で賑わったそうです。今はその面影はなく、ひっそりと社殿が庚申塔を護っています。

② 座間神社(座間市座間)の記念碑は、一の鳥居の脇にあります。長い階段を登った上の境内から、かつては丹沢山塊が一望出来る景勝地であったことがうなず領けます。

③ 龍源院辨財天(座間市入谷)の記念碑は、山門を入った所にあります。この付近一帯には『龍源院湧水』と呼ばれる湧き水があり、山葵わさび田があった名残もある清水が流れています。

さて、来年度はどんな素晴らしい石造物と出会えるか楽しみです。(石造物班 橋本)



龍源院辨財天の記念碑の前で

遺跡に学ぶ 津軽・北秋田遺跡めぐり—考古班 19年度活動報告—

考古班は、毎月一度の定例の勉強会と、随時の各地遺跡探訪や博物館等の見学で現地現物の見聞を広め、関係知識の蓄積と探究心の高揚を図っております。

その中から、今年度の活動のうち、特に印象深い【津軽・北秋田の遺跡めぐり】の一部を報告します。

OBを含め総勢7名の考古班有志が参加し7月24日にスタート。三内丸山遺跡や大湯環状列石など10ヶ所以上の超一流考古文化財とみちのくの温泉を堪能した3泊3日の旅となりました。

その中で、特に忘れ難いのは、石神遺跡とその出土品を展示している、つがる市森田歴史民俗資料館です。この遺跡は縄文早期から近世までの遺物を豊富に出土するとのことで、資料館には主に縄文中期の石器、円筒土器が展示されています。展示されている石器・土器はみな完形に近いもので、計219点が国の重要文化財指定品の由、あまり大きくはない展示室に所せましとばかりに陳列され、質量とも強烈な迫力で息を呑むばかりの感

動でした。目の前にお宝が、”部屋いっぱい”といった感じで、とにかく『スゴイ!!』の一言。5000年以上も前の本州最北部にこれほどまでの文化が栄え、力強く生き抜いた人々がいたとは…。休館日なのに、見学させて下さった地元の方と、我々のためにわざわざ駆けつけて熱心に解説して下さいった学芸員の佐野忠史さんのご好意には感謝あるのみです。究極のご好意は、修復中の資料まで見学を許可して戴き、貴重な文化財を手に触れるくらいの近くから観察することができたことです。

最後に痛恨のお知らせです。班活動に率先参加、この遺跡めぐりにも元気に参加された渡辺刀美乃さんが、1月に急逝されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(考古班 今野)



収蔵庫の中まで見学

民俗学の宝庫 津久井でお宝発見

今年1月24日相模湖町寸沢嵐・増原と道志地区にあった二基の火の見櫓が取り壊されました。



取り壊された
火の見櫓

その時櫓から下ろされた半鐘を調べたところ江戸時代の物であり、釣鐘形でなく、鉦鼓（お寺の楽器）形であることが分かりました。道志地区のものは、直径が378mm・重さ11

kg 銘文は相州津久井県寸沢嵐村願主下道志北村中、天明二壬寅年五月吉日西村和泉守作（1782年）、増原地区のものは直径340mm・重さ10kg、銘文は相州津久井県施主増原村中世話人江藤佐エ門、宝暦十一年辛巳八

月日安政四丁巳八月藤原周慶作（1761年）です。両者とも普通の鉦鼓と比べても大きく、とても大きな音がします。

江戸時代の天明といえ大飢饉があった時代で、特に津久井県は米価高騰に悩まされ、ついに「土平治騒動」という造り酒屋打ち壊し一揆が起きました。

その時に決起の合図や士気の鼓舞のためにガンガン鳴らされたかと想像すると歴史のロマンに酔わされます。

（北部班 小野）



置いた状態
(増原地区)



吊るした状態
(道志地区)

惣吉稲荷境内 墓碑・板碑の不思議？

1. 旗本大岡義成夫妻の墓碑（市登録有形文化財）

惣吉稲荷の境内に大岡義成（法名直心）と妻（法名榮喜）の墓碑が残されています。

大岡吉重郎義成は、徳川家譜代の家臣で天正19年（1591）5月に上鶴間の一部300石を与えられ、地頭となりましたが、慶長4年（1599）42歳の若さで没しました。

この墓碑は、孫の2代大岡作左衛門義重が義成夫妻の霊を弔うために寛永21年（1644）に建てたものです。碑の左側には、「為父（母）大思（恩？）作左衛門施主敬白」と刻まれています。2代目になるべき父の大岡七郎衛門義次は、祖父の義成に先立ち慶長元年（1596）に没していますので、祖父（祖母）ではなく為父（母）としたとも考えられますが、疑問の残るところです。

なお、その後の大岡家は、幕末の大岡勝之助の代に、



旗本大岡義成
夫妻の墓碑

静岡に転封された15代将軍徳川慶喜に従って上鶴間を離れています。

2. 中和田延文4年の板碑（双碑）

（市指定有形文化財）

板碑は、中世の人々が亡くなった人の冥福を祈るため、また、自分自身の死後の冥福のため（逆修）に緑泥片岩などで造った板状の供養塔です。この板碑は、南北朝時代の延文4年（1359）に造られたもので、上部には阿弥陀如来三尊（阿弥陀如来・観音菩薩・勢至菩薩）の来迎図が陽刻されており、下部には、中央に「延文二二年十月日己亥逆修」と、左右には梵字で光明真言が刻まれています。延文4年が「延文二二年」となっていますが、四が死に通ずることから四を2つに分けて「二二」としたものと考えてみましたが如何なものでしょうか。



中和田延文4年
の板碑(双碑)

（東南班 安岡）

春の香り漂う 八瀬川沿いの散策



* 次号以降も各地区の文化財マップを紹介いたします。ご要望があれば、文化財調査・普及員が各地区の文化財の案内をいたしますので、文化財保護課までご連絡ください。

今回は、田名から下溝にいたる八瀬川沿いを自転車で散策しました。

源流である田名のオシノ公園の大杉池から下溝の三段の滝付近の相模川へ流れ込むまで約 10 キロ、1 時間 30 分の旅でした。

大杉の池から流れ出した時はチョロチョロの流れでしたが、半在家と合流すると水音も聞けるようになりました。ゴルフ場の西側の水田の中を抜け小さな橋（こぶし橋）に出た辺りから護岸遊歩道が整備され、川らしくなってきました。さらに下流に進むとさくら橋に出て、この辺りから遊歩道が左側に変わりました。いくつかの橋を過ぎると遊歩道も行止まり、市道に出て当麻の市場方面へ。しばらく八瀬川から離れ、無量光寺付近で再び川沿いの道に出てしばらく歩くと光明学園のグラウンド脇をとおって三段の滝につきました。

2 月とは言え、春の気配を感じる良い時間を過ごしました。これから気候も良くなりますので、皆様も八瀬川沿いを散策してみたいはいかがでしょうか。

(西部班 守屋)

文化財保護課からのお知らせ

鎌倉道の石碑・標柱が寄贈される～東淵野辺・上鶴間本町～

境川沿いにはかつて古道「鎌倉道」が通っていたと伝えられており、現在もその名残りをとどめる場所がいくつか残されています。このたび、その「鎌倉道」を広く紹介することを目的に、東淵野辺 2 丁目と上鶴間本町 9 丁目において、石碑や標柱が市に寄贈されました。



寄贈された碑～東淵野辺

文化財調査・普及員第 3 期登録者が民俗芸能大会に活躍！

3 月 2 日(日)第 28 回相模原市民俗芸能大会が開催され、8 名の文化財調査・普及員がスタッフとして参加しました。特に、今回は 6 名もの第 3 期登録者が受付、誘導、舞台補助に活躍しました。今後も各種事業に携わっていただくことを期待しています。その他、文化財調査・普及員の活動や通信紙「さねさし」の創刊号から 10 号までを相模原市のホームページで見ることができます。次の手順で閲覧できますので、どうぞご覧下さい！

相模原市ホームページ → 観光・文化 (一覧を表示) → 文化財・史跡 → 文化財調査・普及員

発行連絡先 相模原市教育委員会 文化財保護課 電話 042-769-8371